

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

平成24年12月21日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局 経営管理大学院

職 名 教 授

氏 名 澤 邊 紀 生

助成の種類	平成24年度 ・ 国際会議開催助成		
事業内容	国際シンポジウム「The Responses to IFRS in Asian Countries: アジア諸国におけるIFRSへの対応」		
開催期間	平成24年11月11日 ～ 平成24年11月11日		
開催場所	京都大学百周年時計台記念館 国際ホール		
参加者	総数： 153名	内訳：	海外（89名） 国内（64名）
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有(Proceedings)		
会計報告	事業に要した経費総額	2,788,780 円	
	うち当財団からの助成額	1,500,000 円	
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称)	村田学術振興財団
	経費の内訳と助成金の使途について		
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
	旅費	729,060	729,060
	学生補助謝金(アルバイト等)	550,800	280,800
	シンポジウム用消耗品	119,340	14,000
	会場借料(時計台)	69,300	69,300
	看板・スクリーン作成・当日設営	263,050	200,050
シンポジウム用会議バッグ	220,000	206,790	
印刷物	84,000		
ホームページ作成	753,230		
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 貴財団より助成を頂き、本当に助かりました。おかげ様をもちまして、無事国際シンポジウムを開催する事ができましたこと、厚く御礼申し上げます。		

平成 24 年度京都大学教育研究振興財団 国際会議開催助成
成果の概要／ 澤邊紀生

本国際シンポジウム「**The Responses to IFRS in Asian Countries** : アジア諸国における IFRS への対応」は、京都大学経営管理大学院主催のアジア会計学会（**Asian Academic Accounting Association**）第 13 回年次大会 2012 年 11 月 9 日～11 月 12 日の期間中である 11 月 11 日に京都大学百周年時計台記念館で開催された。アジア会計学会は、1999 年の第 1 回年次大会以降、毎年 1 回開催されており、例年、20 数カ国から 150 人を超える会計学者、公認会計士、政府関係者などが参加している。そこで、アジア諸国の会計学者、公認会計士、政府関係者が一堂に集まるアジア会計学会の開催に合わせ、アジア諸国の国際会計基準への対応の仕方や課題を議論するために、本シンポジウムを企画した。

従来、世界の各国は、それぞれの法制度、金融システム、商慣習などを反映した会計基準を作成してきた。しかしながら、現在、資本市場のグローバル化に伴って、国際会計基準審議会は、米国の会計基準設定主体と協力して、会計基準の国際的統合を目指し、国際会計基準（**IFRS**）の作成を進めている。国際会計基準は、市場型直接金融が発達し、大量の複雑な情報を分析する証券アナリストや機関投資家が多数存在する、アングロ・アメリカ的な経済社会システムの国々をモデルとして構築されてきたものであり、少なくとも現在のアジア諸国には合致しない可能性がある。なぜならば、アジア諸国の金融市場は相対型間接市場が中心であり、また多くのアジア諸国は経済の発展段階から見ても途上国が多いからである。現在、アジア各国において、国際会計基準への対応は極めて重要な課題であり、アジア諸国が共通に抱える固有の問題と言っても過言ではない。

シンポジウム『**The Responses to IFRS in Asian Countries**』は、次の二部から構成された。第一部の **Keynote Speech** では、企業会計基準委員会の西川郁生委員長（慶應義塾大学教授兼任）による、「**IFRS Developments in Japan and Asia** : 日本の会計基準の国際的コンバージェンスへの取り組みと問題点」と題する説明と問題提起があった。西川教授は、ASBJ 創設から、自身が議長就任後の東京合意、任意適用の開始など、日本に「おける IFRS への反応の進展を各国の出席者（約 150 名／アジア会計学会参加者 250 名中）を前に講演した。

講演の様子

会場の様子（１）



第Ⅱ部は、トルコ、インド、韓国、および台湾より、各国の会計基準設定やその動向に精通した会計学者を招聘し、各国の会計基準の現状と国際会計基準（IFRS）への対応を巡る諸問題について報告をお願いした。各パネリストの報告題目は次の通りである。第一報告者 Prof. Chi-Chun Liu(National Taiwan University, Taiwan)、'Taiwan's Perspective on Challenges and Issues in Implementing IFRS's'。第二報告者 Dr. Manju Jaiswall (Indian Institute of Management Calcutta, India)、'Response to IFRS-Case of India'。第三報告者 Prof. Recep Pekdemir(Istanbul University, Turkey)、'Position Statement of Implementing International Standards in the Turkish Accountancy'。第四報告者 Prof. Jongsoo Han (Ewha Womans University, Korea)は、'IFRS Adoption and Implementation of Korea'。韓国と台湾は、国際会計基準を採用しているか、今年度の実施を確定しているが、他方、インドとトルコは、国際会計基準の採用を確定していないという対照的關係、また、研究者個人として、国際会計基準の測定上の特徴である、公正価値評価に対して反対意見を表明した、Jaiswall 博士、および Liu 教授と、投資意思決定における有用性を認めて支持を表明した Han 教授および Pekdemir 教授と意見の不一致が見られた。その後、モデレーター、報告者、及び参加者（フロアー）間の質疑応答を通じて、アジア諸国における国際会計基準への対応について真剣な議論が展開された。本シンポジウムを通じて、アジア諸国が共通に抱える問題（国としてのアドプシオンと適用レベルでの弾力性）に対して、いくつかのヒントが提示された。

パネリスト



会場の様子 (2)



各国参加者からの質問風景

